



- ・校務DXの推進Q&A
- ・昼間小学校の校務実践事例

その校務、DXしませんか！？

Q：🌐 DXってなに？

A：DX（デジタル・トランスフォーメーション）は、デジタル技術の浸透によって組織や活動の在り方が根本から変わっていくこと。

学校にあてはめると、クラウドサービスやデジタルツールを活用して「働き方や学び方を変えていくこと」です。

Top 3

- ① 欠席・遅刻・早退の連絡をクラウドで受付・集計
- ② 保護者への調査・アンケートをクラウドで実施・集計
- ③ 保護者からの提出資料をクラウドで受付

「校務DXチェックリスト」
働き方の改善に効果実感が高い項目

出典：文部科学省 【別紙6】校務DXを促進するための取組に関する参考資料 P.4
https://www.mext.go.jp/content/20250326_mxt_jogai01-000033278_6.pdf

Q：⚠️ 気をつけたいことは？

A：「紙をデジタルに置き換える」だけだと…
・入力・確認作業は変わらない
・ICTに不慣れな先生への負担が増える
・紙とデジタルの二重作業になる
つまり、「目的なきデジタル化」は
逆効果になることも。

徳島県GIGAスクールサポートサイト

校務事例ブック

校内研修と授業研究

家庭学習事例ブック

使い

<https://gigaportal.tokushima-ec.ed.jp/google-account-guide2>

徳島県GIGAスクールサポートサイトにおいて、
県域アカウントの活用方法をご案内しています。

校務の活用事例については、「Google for Education
を活用した校務事例ブック」もご参照ください。

✓ 校務DXが
進むとどうなる？

🕒 集計が早い！

→ 余分な作業時間をカット

💡 情報共有が速い！

→ チームの連携が強化

📚 校務で培ったクラウド経験を
授業にも応用！

→ 子供の学びの充実につながる
好循環

Q：🇯🇵 全国の動きは？

A：令和7年3月、文部科学省が「校務DX
チェックリスト（確定版）」を発表しました。

○ 特に伸びたのは「クラウドの活用」。

Google Classroom などの利用が拡大し、
情報共有がスムーズになってきています。



校務DXのゴールは、

- ・子供と向き合う時間を生み出すこと
- ・教育の質を高めること

そのために、**学校全体**で「どの業務をどう
変えるか」を一緒に考えていきましょう。



次の取り組みは、昼間小学校の「リーディングDXスクール」ホームページに掲載されている内容をもとにしています。ここで紹介した事例以外にも、多くの実践や授業での活用が紹介されていますので、ぜひご覧ください。

← 昼間小：LDXホームページ <https://sites.google.com/h-miyoshi.ed.jp/lds/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

職員用Google Classroomの活用

Google クラスルーム



- 職員用のClassroomで、情報を共有しています。
- 日常的な連絡はチャットで行い、資料はGoogleドキュメントやスプレッドシートで作成し、URLで共有しています。
- 毎年継続して行う学校行事や教育活動に関する資料は、トピックを立てて整理しています。
- あらかじめトピックを作成しておくで、「こちらに置いてください」と伝えるだけで運用できるようになります。

指導案作成

Google ドキュメント

- 指導案は、Googleドキュメントを共有して作成しています。
- 作成段階から学年団や教科チームで協力しながら書き進められるのが、クラウドを用いる良さだと思います。
- 「いつでも」「誰でも」関わることができる環境があることで、先生方の繋がりが密になり、強みを生かした関わりが見られるようになります。



目標設定面談の予約

Google カレンダー



- 目標設定面談の予約は、Googleカレンダーの「予約スケジュール」で申し込むようにしています。
- 管理職が、面談期間のスケジュールを共有すると、空き時間が一目で分かるため、「校長先生、空き時間を教えてください」というやり取りが不要になり、とても便利です。

昼間小学校では、Google Apps Script (GAS) と生成AI「Gemini」を活用し、先生方が校務を効率化するアプリを自作しています。開発者は、専門的な経験がなくても、生成AIを活用して日々の工夫を形にし、実用的な仕組みをつくっているそうです。



GASとGeminiでつくる校務アプリ

Google Gemini



補教計画のアプリ化

紙媒体で行っていた補教計画をアプリ化し、入力や調整の手間を削減しました。担当が一目で分かるため、教務主任や担任の負担軽減に加え、情報共有の効率化も実現しました。



保健室来室記録のアプリ化

来室状況をクラウドで記録・分析し、健康管理や支援体制に活用しています。校務支援システムへのコピー＆ペーストや早退時にチャット通知で情報共有ができ、連携もスムーズになりました。

「できない」を「やってみよう」に変える小さな挑戦が、学校を大きく動かします。